

感染症の登園基準

乳幼児に多い感染症

登園時には、登園許可証が必要です。

病名	主な症状	感染経路	潜伏期間	感染可能期間	登園停止期間
麻疹 (はしか)	発熱・咳・くしゃみ、眼の充血、目やにが出る。 口内頬粘膜の白い斑点、全身に広がる赤い発疹。	空気 飛沫 接触	8～12日	発疹出現前2日～ 出現後4日頃	解熱後3日を経過し、 医師が登園を許可するまで
風疹 (3日はしか)	発熱とともに出現する全身への発疹。 痛みを伴うリンパ節の腫れ(頸部・耳の後ろ)。	飛沫 接触	16～18日	発疹出現前日7日～ 出現後7日	発疹が消失するまで
水痘 (みずぼうそう)	体・首のあたりから赤い斑点が広がり、顔面に 生じやすい。発疹は水疱になり、かさぶたの順に 進行する。痒みや痛みを訴えることもある。	空気 飛沫 接触	14～16日	発疹出現前2日～ 全ての発疹が かさぶたになるまで	すべての発疹がかさぶたに なるまで
帯状疱疹	片側に帯状に群がる水疱、かゆみ、神経痛。	接触	不定	すべての発疹が かさぶたになるまで	すべての発疹がかさぶたに なるまで
流行性 耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺・顎下腺・舌下腺などの腫れと痛み。 頭痛・発熱を伴うこともある。	飛沫 接触	16～18日	腫脹前7日～ 腫脹後9日	腫脹の発現後5日を経過し、 かつ全身状態が良好になる まで
結核	微熱、食欲不振、倦怠感、咳など長期に渡り続く。 家族に結核の患者がいる場合は疑う。	空気・飛沫 接触・経口	2年以内	痰の検査で陽性の間	医師が感染のおそれがないと認めるまで
マイコプラズマ 肺炎	咳、発熱、頭痛などの風邪症状。 咳は徐々に激しくなり数週間持続することもある。	飛沫	2～3週間	症状出現前数週間 ～出現後数ヵ月	症状が改善し全身状態が 良好になるまで
百日咳	咳の症状が長期にわたり続く。 連続した咳き込み後、ヒューと音を立てて息を吸う 特有の咳発作。発熱することは少ない。	飛沫 接触	7～10日	咳の出現～3週目頃	特有の咳が消失するまで 又は、5日間の抗菌剤治療 が終了するまで
インフル エンザ	急に高熱が出て、寒気・頭痛・倦怠感・筋肉痛・ 咽頭痛など全身症状がみられる。	飛沫 接触	1～4日	発熱1日前～7日目頃	発症後5日を経過し、かつ 解熱後3日を経過するまで
RSウイルス 感染症	発熱、鼻水、咳などの風邪症状から、 呼吸困難に至ることもある。	飛沫 接触	4～6日	3～4週間	症状軽減後、全身状態が 良好になるまで
アデノウイルス (咽頭結膜熱) (プール熱)	発熱・結膜炎・咽頭炎が主症状。 高熱、喉の痛み・赤み、頭痛、食欲不振、 頸部リンパ節の腫れ、結膜充血、目やになど。	飛沫 接触	2～14日	発症後 数日～数ヶ月	主な症状が消え 2日を経過するまで
流行性 角結膜炎 (はやり目)	目の充血、まぶたの腫れ、目やになど。	飛沫 接触	2～14日	発症後2週間	医師が感染のおそれがないと認めるまで
急性出血性 結膜炎	白目の部分の充血、まぶたの腫れ、めやになど。	飛沫・接触 経口	1～3日	数週間～ 数ヶ月	医師が感染のおそれがないと認めるまで
感染性 胃腸炎	ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症など。 嘔吐、下痢、発熱が主症状。ロタ:白色下痢便。	経口・接触 食品媒介 空気	12時間～ 3日	発病後 約3週間	症状が治まり、普段通りの 食事がとれるまで
腸管出血性 大腸菌感染症 (O157等)	水様下痢便、腹痛、血便。	接触 経口	1日 ～ 8日	便中に菌が 排出されている間	医師が感染のおそれがないと認めるまで
髄膜炎菌性 髄膜炎	発熱、頭痛、嘔吐など。	飛沫 接触	4日以内	有効治療開始後 24時間経過するまで	医師が感染のおそれがないと認めるまで
溶連菌 感染症	発熱、喉の痛みや、細かい赤みを伴う発疹。 しばしば嘔吐を伴う。莓の表面状の舌など。	飛沫 接触	2～5日	抗生剤内服後 24時間以内	抗菌薬内服後 24時間経過するまで
伝染性 紅斑 (りんご病)	風邪様症状の後、両頬に蝶のような形や 平手打ち様の紅斑がみられる。	飛沫	4～14日	かぜ症状出現 ～発疹が 出現するまで	発疹のみで全身状態が 良好になるまで
ヘルパン ギーナ	突然の高熱、喉の痛み、喉・口腔粘膜に、 赤い発疹、水疱、潰瘍がみられる。	飛沫・経口 接触	3～6日	1週間～ 数ヶ月	全身状態が良好になるまで
突発性発疹	突然の高熱が3、4日続き、解熱とともに 胸・背中を中心に発疹が出現する。	飛沫・経口 接触	10日	発熱している間	解熱し機嫌が良く全身状態 が良好になるまで
手足口病	手のひら・足の裏の水疱性の発疹、喉・口腔粘膜 に痛みを伴う水疱が出現。夏風邪の一種。	飛沫・経口 接触	3～6日	手足や口腔内に水疱・ 潰瘍が発生した数日間	発熱・重症の口内炎がな く、普段の食事ができること

その他の乳幼児に多い感染症

登園許可証は不要です。

病名	主な症状	感染経路	治療方法	感染時期	感染可能期間	登園時の注意点
アタマジラミ	小児では多くが無症状であるが、吸血部分にかゆみを訴えることがある。	接触 (頭髮から頭髮への直接接触衣服や帽子、クシ、寝具を介する感染)	・アタマジラミ駆除用のシャンプー(3～4日おき)とすきグシ(毎日)の使用 ・衣類、シーツ、枕カバー、等を(55℃、10分間で死滅)で洗う、又は熱処理(アイロン、乾燥機、クリーニング)	夏季に多い	産卵から最初の若虫が孵化するまでの期間は10日から14日	・駆除用のシャンプーとすきグシを実施する ・シーツは毎日交換して熱処理する ・可能であれば、バンダナ着用(家族間でも感染に注意)
伝染性軟属腫(ミズイボ)	直径1～3mmの半球状丘疹。四肢、体幹等に数個～数十個が集まってみられることが多い。自然治癒もあるが、数ヶ月かかる場合がある。自然消失を待つ間に他へ伝播することが多い。アトピー性皮膚炎等、皮膚に病変があると感染しやすい。	接触	自然消失か摘除	1年中	水イボが存在する間	掻きこわし傷から滲出液が出ているときは被服する(ミズイボが多量または広範囲にみられる場合は感染防止のためプール禁止)
伝染性膿痂疹(とびひ)	水疱や膿疱が破れてかさぶたへと進行する。痒みを伴い、掻いた手で傷ができた部位に感染し広がる。	接触	経口抗菌薬と外用薬が処方されることがある。	夏季に多い	とびひが存在する間	・水疱・膿疱が破れている場合は、被服する(口周りは、マスク着用) ・医師よりプールの許可がでるまで <u>プール禁止</u> ・爪を切る
単純ヘルペス感染症	口周囲の水疱、歯茎・口腔内の口内炎、発熱。(口唇ヘルペス、歯肉口内炎、性器ヘルペス等)	接触	アシクロビル等の内服、静注、軟膏	1年中	水疱を形成している間	・水疱は、被服する(口周りは、マスク着用)